

ペルセウス座流星群早わかり

【ペルセウス座流星群とは！？】

- ・ペルセウス座の方向の一点（放射点：右図の■印）から流星が飛んでくるように見える現象。

【ペルセウス座流星群の特徴】

- ・毎年流れる（8月12-13日頃が極大日）。
- ・数が多い（1時間に20-50個程度）。
- ・明るい流星が多い。
- ・2008年は前半夜は月が明るく、月が沈む深夜1時過ぎから明け方までが見頃。

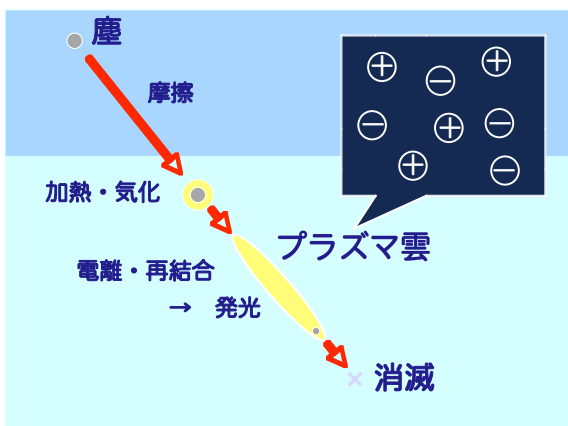
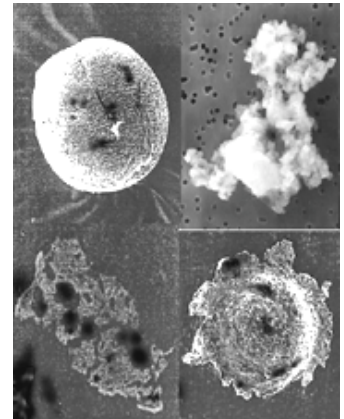


【流星って何！？】

- ・夜空に光のすじが走り、「すぐに消える」現象。
- ・空に輝いている星が流れ出す訳ではない。
- ・ほうき星（彗星）とは異なる。

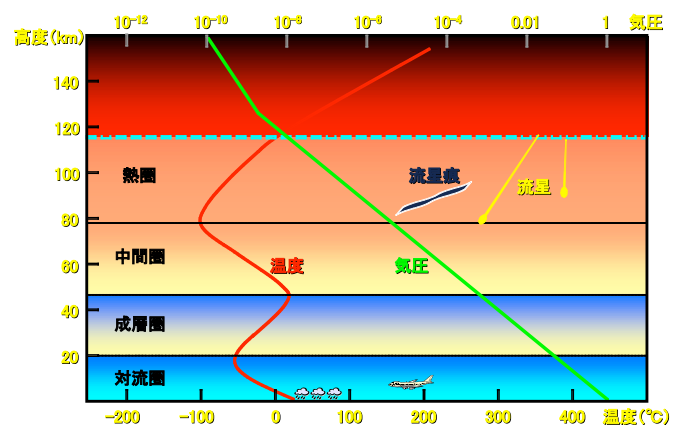
【流星の素は何！？】

- ・砂粒のような小さなチリが地球に落ちてきたもの。
- ・目に見える流星は数ミリメートル以上の大きさをもつチリ。
- ・宇宙空間の塵が流星の素！
- ・さらにその起源は、彗星（ほうき星）がその軌道に残していった塵。



【流星が光るわけ】

- ・目に見えるような明るい流星は、数ミリくらいの塵が地球大気突入した結果生じる、大気中の発光現象。

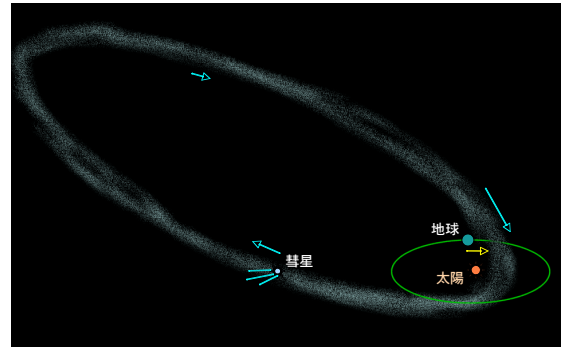


【流星はどこで光るの?!】

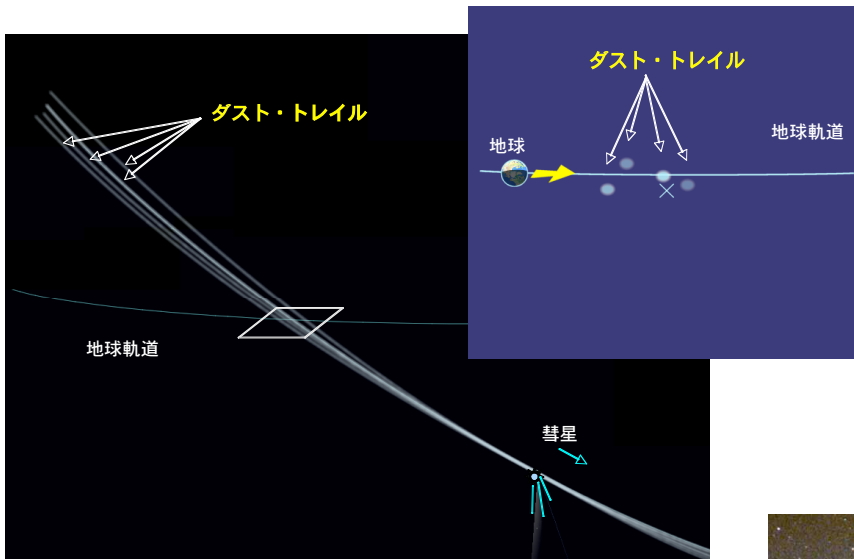
- ・流星は地上80-120kmの上空で光る。

【流星群って何！？】

- ・空のある一点（放射点）から流星がやってくるように見える現象。
- ・毎年ほぼ同じ時期に同程度の数の出現を示す。
- ・彗星の周回軌道に対応した「ダスト・トレイル」と呼ばれる塵の道ができる。
- ・地球の軌道とダスト・トレイルが交わるとき、流星群となる。
- ・交差するダスト・トレイルの塵



の濃さ、太さによって毎年の流星群で流れる流星の数が変わる。



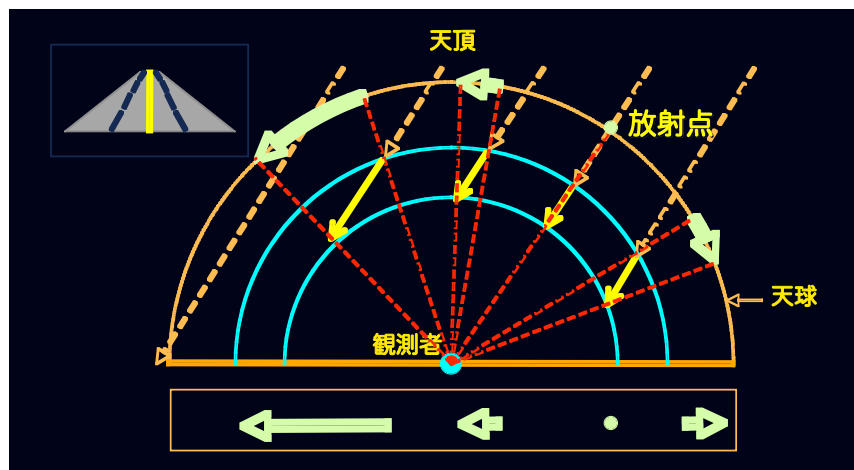
【ペルセウス座流星群のチリの起源】

- スウィフト・タットル彗星 (109P/Suift-Tuttle)
- ・1862年7月にルイス・スウィフト、ホーレス・タットルが発見
 - ・1992年12月に近日点通過
 - ・彗星の本体の大きさ：～8km
 - ・軌道周期：133年
 - ・遠日点距離：52天文単位（太陽と地球の距離の52倍！）



【放射状に見えるわけ】

- ・観測者から見て、光った軌跡を天球に投影すると、放射点を中心に四方八方へ流れるように見える。



【いろいろな流星群】

流星群の名前	ピーク	地心速度	母天体
しぶんぎ座（りゅう座）流星群	1月4日	41 km/s	マックホルツ第1彗星
こと座流星群	4月21日	47 km/s	サッチャー彗星
みずがめ座η流星群	5月5日	66 km/s	ハレー彗星
みずがめ座δ流星群	7月29日	41 km/s	マックホルツ第1彗星
ペルセウス座流星群	8月12日	59 km/s	スウィフト-タットル彗星
オリオン座流星群	10月21日	19 km/s	ハレー彗星
おうし座流星群	11月5日	27 km/s	エンケ彗星
しし座流星群	11月17日	71 km/s	テンペル-タットル彗星
ふたご座流星群	12月13日	35 km/s	小惑星フェアトン

【流星を見るには】

- ・夜空の暗い場所
- ・空が開けた場所
- ・一点を見るのではなく、周辺をぼおーっと見る。
- ・寝転がって見る。
- ・マナーを守る
 - * 「立入禁止」場所や危険な場所に入らない。
 - * ゴミを出さない（持ち帰る）。
 - * 大声で話をしない。
 - * 灯りは必要最小限にする（特に、他の人に向けない）。

